

COLUMN 6

性的マイノリティに対する取組について
【神奈川県横須賀市】

性的マイノリティ分かち合いの会運営補助事業

(実施期間) 平成26年度～

(基金事業メニュー) 強化モデル事業

(実施経費) 200千円

(実施主体) 横須賀市・性的マイノリティ支援団体

【事業の背景・必要性・目的】

性的マイノリティである、性同一性障害者、同性愛者・両性愛者、性別の判断が難しい性分化疾患などの方は、20人に1人の割合でいると言われている。日常生活では性別役割、異性愛が前提であることを求められ、様々な場面で葛藤を抱えているが、少数者であるために周囲になかなか理解してもらえず、周囲への違和感と孤立感を強めてしまうこともある。最近の研究からも性的マイノリティの方は自殺のリスクが約6倍高く（注1）、自殺ハイリスク者であることがわかっている。

自殺総合対策大綱にも、性的マイノリティへの対策の必要性について明記されている。横須賀市では平成25年度から、人権・保健衛生・児童福祉・教育部局の関係課長が出席する「性的マイノリティ関係課長会議」を庁内に設置し、情報交換・対応方法等の検討を行っている。当時、市内には性的マイノリティの交流ができる場はなく、「当事者同士の情報交換の場づくりの支援」を施策体系の一つにあげ、26年度より性的マイノリティの孤立の防止を目的として、情報交換できる場を市内で開催できるよう「性的マイノリティ分かち合いの会補助事業」を開始した。

注1：厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策研究事業 ゲイ・バイセクシュアル男性の健康レポート2 より

【事業目標・事業内容】

平成26年度は6回開催。

当日はファシリテーターの進行による、1回2時間のグループミーティング。始めは簡単なアイスブレイクと自己紹介をし、その後「家族」「仕事」「カミングアウト」など、その都度テーマを決めて、意見交換や普段言えない気持ちや想いを話している。終了時にはアンケートを行い、基本属性（年齢、セクシュアリティ、居住地）やイベントの参加理由・満足度などを確認している。

【事業実施に当たっての運営体制】

チラシの作成や申込の受付、当日の運営等事業の実施は性的マイノリティ支援の実績がある民間団体が行っている。横須賀市は民間団体への補助金の支出、市報や市のツイッターへの掲載等の広報支援などを行う。

【事業の工夫点】

- ・隣接市に性的マイノリティの交流会があるが、交通費などの問題で隣接市に参加しに行けない10代、20代の若年層を対象とした。
- ・「自分が性的マイノリティである」とはっきり認識がないことも多いため、「10代、20代の、同性が好きな人、性別に違和感がある人の交流会」と表現している。
- ・周囲へカミングアウトしていない方も多く、プライバシーに配慮した。参加にあたっては匿名制とし、会場についても公表せず、申込した人にだけ知らせる方式をとっている。

【事業成果、今後の課題、その他特筆すべき点】

平成26年度は全6回実施し、延べ35名の参加者がいた。匿名での参加であり、対象者は市民に

限定していないため、参加者のうち横須賀市民は2割である。

性に戸惑いがあってもなかなか周囲に言えず、また学校生活で制服など男女の区別をすることが多い学齢期に、学校を通して本事業の周知が行き渡ることを検討していたが、保護者に性的マイノリティであることを伝えていないことがほとんどであるため、保護者の了解を得ずに未成年である児童・生徒に参加を勧めることについての問題がある。そのため、学校長や教職員には事業を周知しているが、児童・生徒への学校経由で一律に周知することは難しい。

参加者へのアンケートでは、参加した感想として皆「満足」と回答している。また、参加し理解してくれる人と出会えたことから、自己肯定感があがったり、「今日来て、自分は生きていていいんだと感じた」という振り返りもあった。

参加者からは、「自治体の補助金事業であるため参加した」という意見も複数あがっており、自治体関わっていることが当事者への安心感につながっていることがうかがえた。

(神奈川県横須賀市保健所健康づくり課こころの健康係)